

## RFMD ニュース

### 会社連絡先:

RF Micro Devices Inc.  
Brian K. Cockman, Public Relations Specialist  
7628 Thorndike Road  
Greensboro, NC 27409-9421, USA  
電話: +1 (336) 678-8945  
[bcockman@rfmd.com](mailto:bcockman@rfmd.com)



[rfmd.com](http://rfmd.com)

## RFMD社、POLARIS™ 3 TOTAL RADIO™ トランシーバ・ソリューションを発表

### **POLARIS™ 3でRF系が単純化、革新的なTOTAL RADIO™による 柔軟性に富んだ端末プラットフォームが可能に**

バルセロナ (スペイン)、2007年2月13日: 移動通信駆動用各種アプリケーション向けの高性能無線システム/ソリューションを設計、製造し業界をリードするRFMD社 (ナスダック: RFMD) は、バルセロナで開催される3GSMワールド कांग्रेस2007に同社のPOLARIS™ 3 TOTAL RADIO™ソリューションを出展する。アンテナからベースバンドまでを統合した革新的なTOTAL RADIO™システムのPOLARIS 3は、EDGE端末プラットフォームのコスト、開発、配置上の諸課題を効果的に解決するソリューション。

POLARIS 3はGPRS/EDGE用の4バンドRF送受信回路、送信スイッチ、受信SAWフィルタ、整合回路をTOTAL RADIOとして一体化したもので、アンテナからベースバンドまでのあらゆる組み合わせ機能を最適化し、送信系の効率と受信感度を向上させている。POLARIS 3によるTOTAL RADIOシステムでは外付けRF部品の調達や実装が不要でRF系が大幅に単純化されるため、プラットフォームの実装コストが削減でき、端末の総合性能が向上する。また、POLARIS 3は業界で最も高い送信効率が得られるRFMD社の次世代オープンループ大信号ポワ変調アーキテクチャーを更に強化する。POLARIS 3ソリューションを本日同時に発表されたDC/DCコンバータと組み合わせればバックオフ動作時の効率が更に改善され、同時に電池の放電電圧範囲を最大限に活用したエネルギー消費の最適化が可能になる。

「端末メーカーは当社の超小型POLARIS 3ソリューションを活用し、経済的かつ迅速に様々なレベルの多機能EDGEプラットフォームの開発と製品化を行うことができます。アンテナからベースバンドまでを一体化するTOTAL RADIOソリューションのPOLARIS 3は、各メーカーが抱えるRF系の複雑化という課題を解決し、今まで難しかった一体化の要件を完全に満足し、要求性能を超える性能を提供します。複数の顧客でPOLARIS 3を採用した端末の生産が増加し、当社の市場シェア拡大の原動力となることを期待しています。」とRFMD社の社長兼CEOのBob Bruggeworth氏は語る。

高度な一体化を達成したPOLARIS 3ソリューションには、その他にも以下に示すような端末メーカーの利益につながる革新的な技術が採用されている。

### セルフ・シールド技術

POLARIS 3の特長は自社で開発されたセルフ・シールド・プロセス技術の採用で、RFICやRFモジュールにRFシールドを内蔵させることで外部のシールドを不要にする。このセルフ・シールド技術により容積

が30%～50%も小さくなり、同時に基板上の配置に対する感受性が低くなる。配置上の感受性が下がり回路の再チューニングのリスクが軽減されることで、携帯端末の市場投入リードタイムが短縮され、実装コストが削減される。

## DigRF

RFMD社は業界最先端のEDGEトランシーバにDigRF 2.5Gを導入し、デジタル・インタフェース化の先駆者としての立場を継続している。業界標準のデジタル・インタフェース、DigRF 2.5Gを使うことでRF系の複雑さが軽減され、無線系やベースバンド系のインテグレーション期間が短縮される。

## 総輻射電力

また、POLARIS 3には総輻射電力(TRP)性能を向上させる独自の回路技術が採用されている。TRPとは、たとえばアンテナの不整合状態など、最適化されていない状態で携帯端末が送信可能な出力電力のことである。アンテナの不整合は、アンテナ自体の効率が悪い場合や、端末が金属面に接近した場合など、様々な要因で発生する。POLARIS 3に組み込まれたRFMD社のTRP改善技術により、呼接続の失敗頻度が減ると同時にネットワークの覆域や効率、データのスループットが向上する。

## 独自の較正技術

携帯端末の較正が短時間ででき、工場の生産性が向上するよう、POLARIS 3の内部には較正用の回路やアルゴリズムが実装されている。さらに、POLARIS 3ソリューションに含まれた自動較正機能の働きで、使用中の末端は常に総合性能の最適化が行われる。

RFMD社は、POLARIS 3 TOTAL RADIOを2007年2月12～15日にバルセロナで開催される3GSMワールドコンGRESS 2007に出品する。会場はホール8で、同社のブースは8B79。

**RFMD社について** RF Micro Devices, Inc. (NASDAQ RFMD)社は移動通信の主要アプリケーション向けに高性能な無線システム/ソリューションの設計、製造を行う会社で、この業界のグローバル・リーダー。RFMD社のパワーアンプ、送信モジュール、携帯電話用トランシーバ、およびシステム・オン・チップ(SOC)ソリューションは現在および次世代の携帯端末、基地局、無線ローカルエリアネットワーク(WLAN)、無線パーソナルエリアネットワーク(WPAN)、全地球測位システム(GPS)などの最新機能をサポートし、全世界的なモビリティの向上と接続性の拡大に寄与するもの。最先端の半導体技術による幅広い製品ラインと無線システムの豊富な経験で定評のあるRFMD社は、現在および将来の市場要求を満たす最新無線機能のサプライヤーとして、世界中の主要な移動通信機器メーカーから選ばれている。

ノースカロライナ州グリーンズボロに本社を置くRFMD社はISO 9001およびISO 14001の認証取得済みのメーカーで、世界各地にエンジニアリング、設計、販売、サービスの拠点を持つ。RFMD社はRFMD銘柄で米ナスダックグローバルセレクト市場に上場しています。なお詳しい情報はRFMD社のホームページ、[www.rfmd.com](http://www.rfmd.com)に紹介されている。

このプレス・リリースには、1995年米国私募証券訴訟改革法(Private Securities Litigation Reform Act)がその免責条項として定める「将来的な予測」が含まれています。この「将来的な予測」には当社の計画、目的、説明、主張などについて、またはそれ以外についての記述が含まれていますが、これらの記述は歴史的な事実ではなく、通常は「可能」、「必要」、「予測」、「期待」、「予定」、「計画」、「推測」、「確信」、「推定」、「予想」、「可能性」、「継続」などの用語や類似の用語とともに使用されています。またこれらとは別の表現で「将来的な予測」が記述される場合もあります。この文書に含まれている「将来的な予測」の記述は現時点における経営陣の判断や期待を表していますが、実際の成果や出来事、業績などはこれら記述で表現されたり暗示されたりした内容とは実質的に異

なる場合もあります。当社は米国連邦証券取引法により要求される場合を除き、これら「将来的な予測」の記述内容を改訂したり、あるいはその記述の改訂を公表したりする意図を持っていません。RF マイクロデバイセス社の事業には多くのリスクや不確実性が内在しており、その内容には四半期毎の経営成果の変動、無線関連市場の発展や成長率、ウェハ製造施設、分子線エピタキシー施設、組み立て施設、試験、テープ、リール施設など各種製造施設の稼働に関するリスク、熟練技術者や開発リーダーを採用・確保する当社の能力、生産歩留りの変動、革新的技術によりコストを削減し正味利益率を改善する能力、新製品を市場に投入する能力、顧客の在庫センターを通して行う委託販売への依存性、製品需要に即応したタイムリーな生産能力の調整を行う能力、限られた顧客への依存性、サードパーティへの依存性などが含まれています。上記以外も含むこれらリスクや不確実性については米国証券取引委員会の様式 10-K に従った RF マイクロデバイセス社の最新アニュアルレポートの中で説明されていますが、このような不確実性のため、これら記述の表現や暗示による内容と実際の成果や出来事、業績とは実質的に異なる場合があります。

RF MICRO DEVICES® および RFMD®は RFMD, LLC の商標である。その他の商品名、商標、登録商標はそれぞれの所有者の財産である。

###